

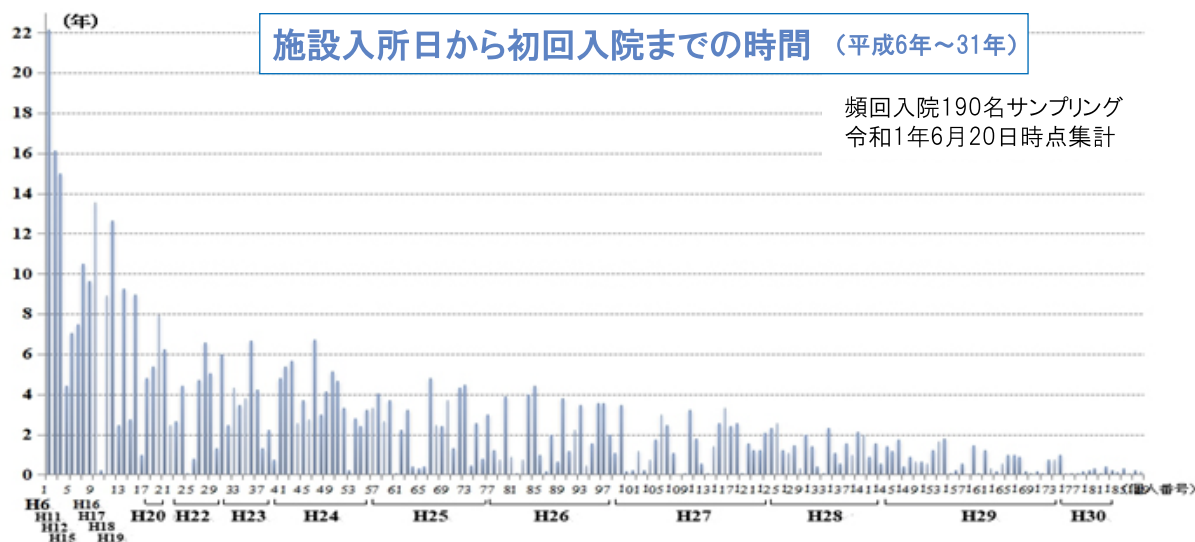
高齢者介護施設での介護士・看護師の人手不足に加えて激務が問題となっている。高齢者人口が増え、施設需要が高くなってきているのは事実である。一昔前より施設数が増えているにもかかわらず、なぜ、このような問題が起こるのだろうか。

高齢者の多くは複数の疾患を持つという特徴がある。これは昔でも同じのはずである。昔は元気なお年寄りから、病気治療の必要なお年寄りまでもが同じ施設に入所していたのかもしれない。

多種類の老人施設ができ、医療依存度に応じた選択ができるようになって、医療依存度の高い人が一ヶ所に集められていることも事実である。

—これは本当なのだろうか？—

当院の近接の社会福祉法人郁慈会の特養からの入院患者の入所から入院までの期間を調べてみた。



上のグラフは、令和1年6月20日集計の平成6年から平成31年までに入所した190名を対象として、横軸を入所年、縦軸を入所から初回入院までの期間(年)として、各人をプロットしたものである。

平成20年頃までに入所した人は、入所後しばらくは何もなく元気に暮らし、病気で入院が必要となるのは入所後数年経過してからのことであった。平成28年頃の入所者からは、入所後無事に暮らす期間が1年程度に短縮し、平成30年以降になると、入所後数ヶ月で早くも入院が必要になっている。

これは病院近接という立地的特異性から、医療依存度の高い人が特に集まってきている当法人特養だけの傾向であるのかもしれない。

当院の立地的特異性を度外視にしたとしても、年々入所者の年齢が高くなってきていることは事実である。このグラフは近年の施設入所者の医療依存度が、以前より確実に高くなってきている事を客観的に表しているものとして興味深い。

一昔前の高齢者施設は原則元気な人が入所し、健康管理も自宅で行うのと同じ程度、介護する側にも負担は少なかった。しかし、近年では頻回の喀痰吸引、体位変換、食事介助など多く医療介護が必要になってきている。これらを精一杯行っても、入所後すぐに入院が必要な肺炎や心不全、尿路感染を起こすことが多くなっている。

つまり医療依存度の高い人の入所が多くなったことが、高齢者介護施設での介護士・看護師の激務の原因の一つとも考えられる。

高齢者疾患は、症状が現れにくいという特徴がある。

異変に気付いた時には、かなり悪化していることもよく見かける。

医療現場の視点を介護現場にも定着させ、高齢者施設内での早期発見を目指したいと思う日々である。